

暮らしナビ 住まい Living

kurashi@mbx.mainichi.co.jp

NAVIGATOR

シックハウス症候群と闘うには。

「歩、足を踏み入れて驚いた。長崎県佐世保市の高齢者グループホーム「菜の花の家」。白く明るい室内に、ほのかな木の香りが広がる。こうした施設にありがちな消毒臭や加齢臭が感じられず、じめじめした暗い雰囲気とも無縁だ。

施設長の磯本三郎さんは「オープン前に多くの施設を見学して、共通する問題がなかった」と語る。問題を解決してくれたのが、「健康住宅」に取り組む福岡市の建

材メーカー「カイケンコーポレーション」(092・874・6110)が5年前に開発した「幻の漆喰」だった。有明海の赤貝を焼成し、海菜のりと触媒液を混ぜたもので、ほこりやにおい、化学物質に対し、驚異的な吸着・分解能力を持つ。

同社の浦上直社長は「検査

福岡の建材メーカーが開発

機関に持ち込んだら、通常1週間の試験に1カ月かかったと語る。濃度4・0ppmのホルムアルデヒドが、6分で0・1ppm、30分で測定限界の0・05ppmまで減少。通常なら何時間もかかる分解がもの数分で進むため、検査機関側がミスを疑って試験を繰り返したのだ。

光や約3度の熱で触媒として機能するため、日の当たらない場所でもにおいを分解する。焼き肉をしても、3時間経てばほとんど分らないという。「菜の花の家」の磯本さんは、「トイレにもおわ

におい、ほこりにも効果

ず、個室もにおいがこもらないので、入居者が過ごしやすい。ほこりもほとんどたまりない」と語る。

本領は化学物質だ。一般の新築家が接着剤や塗料、防霉剤の化学物質が原因でシックハウス症候群を起こす場合があるのに対し、幻の漆喰はこれらをまるごと吸着、分解する。浦上社長は「アレルギー性気管支炎やアトピーの症状がなくなった、という声も引きも切らない。モデルハウスで宿泊体験したら『もう帰りたいくない』と言う子どももいる」と語る。

漆喰が化学物質分解



①「幻の漆喰」で壁を塗り、床やテーブルに「音響熟成木材」を用いた菜の花の家＝澤木隆彰
 ②木目を浮き立たせた床は素足に心地よく、体調を整える効果も期待できる。「幻の漆喰」や「音響熟成木材」を使ったモデルハウスでは宿泊体験も可能だ＝田中雅之撮影



畳や床材にも配慮

カイケンコーポレーションの「健康住宅」を支えるのは幻の漆喰だけではない。畳でドラム田一本に当たる大量の竹炭を内部に入れた酒造置は、マイナスイオンを発生し、脱臭や保湿・断熱効果に優れる。また、宮崎県産の厭肥杉を、クラシックを流した高温の倉庫で熟成乾燥させた「音響熟成木材」は、細胞が破壊されていないため調湿機能に優れ、免疫力を向上させるという。木目を浮き立たせる加工を施した床材は、足裏を刺激。木目や食器棚まで、同じ木材で自社製作する。全国に約200ある取引先の工務店直送で中間マージンを省き、坪単価は50万円前後。マンションなどのリフォームにも対応する。

後、マンションなどのリフォームにも対応する。

「実は……」と浦上社長が言う。「シックハウス対策で建築基準法を改正した後、発症者が増えているんです」。厚生労働省が指針値を設定したシックハウス症候群の原因物質は13種類に及ぶが、建築基準法が規制するのはホルムアルデヒドとクロロピドホルムだけ。ホルムアルデヒドの発散量が減少で「四つ星」に認定された建材は無制限に使用できる。浦上社長は「四つ星の健康建材」と称して、他の化学物質を大量に含んだ建材があふれ、被害者が続出してきている」と指摘する。

*

高齢者や障害者向けの介護住宅が専門の京都市の建築会社「ケアライフ・システム」(075・6900・0000)では、カイケンの建材を使って化学物質過敏症患者向けの住宅を手がけている。営業部の西川泰司さんは、「わざわざですが、いろいろな思いで依頼されるケースが少なくない」と話す。

施工業者と16項目の契約を交わし、喫煙する作業員は除外。関係業者全員に工事期間中、塗料や制汗剤、香水の使用を禁止し、プラスチックなど石油加工製品の持ち込みも制限する。さらには作業服や汗ふきタオルは合成洗剤で洗えないため、毎日同社が回収して社内で洗濯する徹底ぶりだ。西川さんは「患者さんにとっては何よりも、きちんと自宅だけでも入居できる場所にしてあげたい」と話している。

【澤木隆彰】